

ウィンド・ミル

塚田南小学校だより 令和6年度学校評価特別号
令和7年2月28日



風を受け、風を起こし、大きく力強くまわる風車 (WindMill) に願いを込めました。

先日は学校評価の回答にご協力いただきありがとうございました。保護者の方々からはご意見だけでなく、感謝や励ましの言葉をたくさんいただきました。ご意見は真摯に受け止め、来年度の学校運営に役立てていきます。

令和6年度学校評価(保護者)集計 在籍1,229名 回答883名 (%)

調査項目	肯定評価 4+3	前年度	平均
1 学校は、お便り・ホームページ、面談やメール配信等で学校の様子や家庭・地域への連絡をわかりやすく伝えている。	96.9	98.0	3.5
2 お子さんは、楽しく学校に通っている。	94.0	94.3	3.6
3 学校は教育活動(授業・行事)に工夫し、適切に行っている。	97.0	98.1	3.5
4 お子さんの学習態度(意欲的・主体的になど)に、学校での指導が生かされている。	85.4	88.7	3.2
5 お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。	88.0	89.3	3.3
6 お子さんは、「英語科」の授業に意欲的に参加している。	86.3	87.7	3.3
7 お子さんは、学習用端末(タブレット)を、ルールを守って使用し学習効果をあげている。(新設)	83.8	87.2	3.2
8 お子さんの生活態度(挨拶・思いやり・協力・決まりを守るなど)に、学校での指導が生かされている。	91.4	92.6	3.3
9 学校はいじめのない学校作り(アンケートや教育相談)に取り組み、悩みを相談しやすい体制がある。	92.0	93.5	3.3
10 学校は、お子さんの健康保持や体力向上に力を入れている。	94.4	93.5	3.4
11 学校は安全管理のため、校舎内外の環境整備、登下校指導に努めている。	97.5	97.6	3.6
12 学校はスクールカウンセラーや相談窓口の設定など、児童・保護者からの相談しやすい体制を整えている。	95.6	95.1	3.5
13 家庭では、親子のコミュニケーションを大切にしている。	99.3	99.6	3.7
14 保護者として学校での教育活動に興味をもち、登下校見守りなどのボランティア活動に参加している。	80.9	77.5	3.2

※4当てはまる 3やや当てはまる 2やや当てはまらない 1当てはまらない の4段階で評価する
肯定評価とは、4当てはまる 3やや当てはまる の合計割合

令和6年度学校評価(4~6学年児童)集計 在籍603名 回答563名 (%)

調査項目	肯定評価 4+3	前年度	平均
1 学校は楽しいです。	88.8	91.6	3.4
2 学習していることがわかります。	95.4	96.3	3.6
3 授業中は一生懸命勉強しています。	92.7	94.0	3.4
4 外国語の授業に、積極的に参加しています。 (☆1・2年生) 船橋市における低学年向け英語の調査	87.6 (82.0)	86.3 (84.1)	3.4
5 タブレットのルールを守って使い、学習に役立てています。	96.4	97.0	3.6
6 宿題をきちんとやっています。	89.5	91.1	3.5
7 家では、宿題でない勉強や読書もします。	81.9	82.9	3.3
8 友達に優しく、なかよく協力して過ごしています。	96.8	95.6	3.7
9 まわりの人にすすんであいさつをしています。	85.8	90.3	3.3
10 学校の決まりを守って過ごしています。	95.6	97.5	3.6
11 係や日直、委員会の仕事にすすんで取り組んでいます。	95.2	95.5	3.6
12 好き嫌いなく給食を食べています。	82.1	81.9	3.3
13 交通安全に気をつけて登下校しています。	96.6	97.3	3.7
14 すすんで外遊びや運動をして身体を動かしています。	74.1	72.4	3.2
15 授業はわかりやすいです。	92.2	90.9	3.5
16 先生は、よく話をきいてくれます。	92.0	89.5	3.5

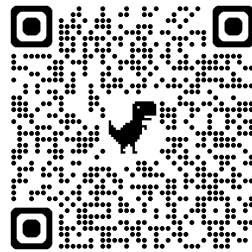
・4月に行った6年生の全国学力・学習状況調査の結果では(12月号参照)、県・全国と比較して、国語科と算数科ともに高い正答率であり、学習指導要領の領域別・評価観点別・問題形式別のいずれにおいても全国平均を上回っていました。その中で国語の「話すこと・聞くこと」の正答率が低い傾向にありました。塚田南小学校ではこれまでICTの活用について校内研究を進めて参りましたが、一定の成果を得た上で本年度より国語科の研究を進めて参りました。来年度以降も国語科の研究を通して子供たちの言語活動の充実を図り、学習の中でスピーチなどの発表をする機会を意図的に設定していきます。児童評価項目と(2)と(15)にあるように、わかりやすい、学びに繋がる授業展開を心がけ、さらに子供たち一人一人の学力を伸ばし、学校でいきいきと学び、活動する姿をお伝えできるよう、今後も授業改善や実践、研究に努めていきます。また、児童からは「自分のペースで理解しながら学習を進められる」、「楽しみながら学習をすすめることができる」、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」など、ICT機器の活用に肯定的な回答が多数ありました。引き続きICTを活用した学習の推進を図り、児童の興味・関心を引くだけでなく、意見の比較検討や個別学習を進めるなどの様々な場面でICT機器の積極的な活用を継続して参ります。

・保護者の方々からは一人一台端末の活用について多数のご意見をいただきました。

特に低学年においては、日々の端末の持ち帰りに関してはランドセルが重くなってしまい負担であることから、強制ではなく任意であること、教科書類の持ち帰りはさせずに極力学校に置いて帰れるよう声をかけていきます。また、持ち帰った端末で遊んでしまい管理が難しいとのご意見も頂戴しました。学校では有害なサイト等に関してはフィルタリングをかけていますが、全てのサイトを監視することはできません。ご家庭で利用時間の制限を設けるなどの対応にご協力をお願いいたします。

一人一台端末の家庭での利用制限方法については学校ホームページ内のコンテンツ

「GIGA スクール構想」内の「一人一台端末の家庭での利用制限方法について」をご参照ください。



学校では情報モラル教育も行いながら、引き続き適切な利用について児童に指導していきます。

・今年度も充実した校外学習を実施することができました。飛ノ台史跡公園博物館や三番瀬環境学習館、動物公園・水族館等、各企業への校外学習だけでなく、スクールロイヤー出張授業、芸術鑑賞教室、書き初め指導、金融教育、千葉ロッテマリーンズや千葉ジェッツなど、たくさんの講師の先生をお呼びしての授業が実施できました。本校は、大規模校であるため、校外学習の受け入れ先のキャパシティを超えてしまう可能性があります。学年を複数のグループに分け、交互に各施設に行くなどの工夫をしながら、来年度も児童のキャリア教育が充実できるようにしていきます。

・登下校時の見守りに関してはこれまで通り毎日6人の保護者の方に通学路の見守りを行っていただいています。通学路安全対策委員会の活動にご協力いただき大変助かっています。子供たちの意識（児童評価項目13）も高くはありますが、児童数に対して通学路が狭いだけでなく、自転車や自動車の往来も多くあります。保護者の方々や地域の方々の見守り無くして日々の安心・安全な登下校は容易ではありません。引き続きご協力をよろしくをお願いいたします。学校では引き続き安全教育に努めて参ります。

・来年度も音楽祭や6年生を送る会のリハーサルを公開し、学校にお越しいただく機会を継続します。保護者の方からは参観できる行事を増やして欲しいとご意見がりましたが、学校規模を考えると難しいのが現状です。今後も学校行事の公開については、実施形態や公開方法を考え、子供たちの活動を参観いただく機会を増やせないか検討していきます。

・挨拶について、児童会が主体となって「あいさつ運動」に取り組んできました。しかしながら、子供たちの意識（児童評価項目9、昨年度比-4.5%）や実態（教職員評価：挨拶する児童が増えてきたがまだまだだと思ふ・挨拶をしても無言ですれ違う児童がいる）からすると、引き続きあいさつの大切さについて粘り強く児童に伝えていく必要があります。今後も教職員がすすんで児童に挨拶をしていくとともに、児童が主体となってあいさつに取り組む活動を進めていきます。



運動会



児童会あいさつ運動

- ① あいさつ
- ② いっぱい
- ③ さいこうな
- ④ かなん

学校運営協議員の皆様より

・児童の自己評価を見ますと、学習への意識が高く、授業を理解しようとする姿勢が育っているのだと感じます。また、保護者からは子供とのコミュニケーションをととても大切にしていることがわかります。学校評価の結果からだけでなく、子供たちの様子を見たり、学校からの話を聞いたりしていると保護者が学校の教育活動に協力的であり、教育環境が整っている家庭が多いと見受けられます。

・昨年同様、挨拶が課題とのことでした。登校時の見守りをしていると、高学年になると徐々に挨拶が減ってきているように感じます。また、集団での挨拶ができて個別に挨拶するのは難しい様子です。ご時世として難しい部分もあるかもしれませんが、挨拶を強いるのではなく、自然と挨拶ができるようにしていくことも必要かと思えます。学校や家庭の中での言葉遣いに気をつけること、呼ばれた際には返事をするところから始めてみてはいかがでしょうか。

・学習用端末の扱いに関しては持ち帰りだけでなく、学習での活用方法や必要性についてのご意見が見られました。特に1,2年生は書字に関して、手書きで学ぶ必要性もあることから学習効果が上がるバランスを考えながら活用していくのが望ましいです。また学校だけでなく、家庭でも手で書く機会を増やしていく必要があるのではないのでしょうか。

・登下校時の通学路の見守りに関しては、保護者の方のご協力が引き続き必要だと思えます。通学の様子を見ていただいた上で、保護者としてできることは何かご意見をもらうことも必要かと思えます。

～ 成瀬有様 鈴木祐子様 池田久人様 大黒雄二様 ありがとうございます。～

